



# 広島女学院同窓会 東京支部ニュース

編集・発行 東京支部役員会

2023. 6. 1  
第 81 号

## 今年度の聖句

愛には偽りがあってはなりません。悪を憎み、善から離れず、兄弟愛をもって互いに愛し、尊敬をもって互いに相手を優れた者と思いなさい。怠らず励み、霊に燃えて、主に仕えなさい。希望をもって喜び、苦難を耐え忍び、たゆまず祈りなさい。  
(ローマの信徒への手紙 12 章 9～12 節)

## 映画「夏雲－逝きしものへのレクイエム－」を監督して

独立プロ名画保存会 代表 山本 洋子



1990 年の 5 月、カメラマンである夫、駿の従兄弟、俳優の山本學のお連れ合いの佳永子さんが我が家を訪ねてきた。佳永子さんは広島女学院在学中に原爆で、多くの友をなくした。生き残った辛い思い、友への深い鎮魂を込め、毎年、東京の同窓会で、亡くなった友たちの名前をスライドに映して追悼してきた。しかし、被爆の全体像にも触れたいし、若い人達に伝えるためにも映画として残したいとの相談を受けた。独立プロで仕事をしてきた私たちにとって、『戦争、被爆、平和』は避けて通れないテーマであり、思いに共感して引き受けた。

早速、当時の橋本校長、関係者と、内容についての話し合いを重ね、シナリオを練り上げ、2 年間にわたり、戦争そのもの、女学院の人々、遺族の方々の証言を撮影した。もちろん、8 月 6 日の追悼式も。私は映画を創るとき、戦争に加担する映画は創らない。常に社会的弱者の目線に立つ。時の政府の在り

方には厳しい目を向ける。を心掛けている。被爆に向き合う事は、私自身の生き方、映画創りの姿勢を、問われる事でもあった。

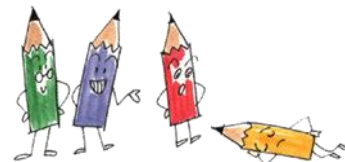
若い人達へ伝えると言う意味で、当時の高校生が色々のところを訪ね歩き、真実を探っていく方法を取り入れた。そこには、橋本校長も同行していただいた。名前の字体の読み違いで、身元不明とされていた生徒が 46 年ぶりにわかり、そのご遺骨が遺族の元へと帰れた事も心に残る撮影だった。誰かの被爆体験が一番凄いわけでなく、どの遺族が最も悲惨という事ではなく、一人一人のいのちはとても重かった。ナレーションは學に頼んだが、思いを込めて語ってくれ、心にしみるものとなった。

1991 年、ロケが終わった時、イラク戦争が勃発した。原爆ドームの前で、被爆者の方々が抗議の声をあげていた。また、たくさんの尊い命が奪われるのかと慄然とした。

広島女学院の被爆の実相を描いているが、ここに流れているのは、決して、特殊ではなく、描いたのは、戦争、被爆についての普遍の事実と思っている。

常々、映画は未来を語るものと思っている。被爆と言う過去を描いても、そこからどんな未来を私たちは作り出していかなければならないかが、見えなければならぬと思っている。

今、ウクライナを思う時、軍事対軍事の世界は決して許してはならないと思う。戦争は豊かな再生産をうみださない。この映画をたくさんの人たちに見てもらい、いのちについて、平和について考えてもらえる事を願っている。



## 「Cum Deo Laboramus に想う

東洋英和女学院大学教授 小坂 和子 (田中/高 30)



たちが、にこにこして、そして背筋をのばしてご挨拶をさせていただきます。ふと、女学院に入学して初めての聖書の時間に、土井ミカヨ先生から、ゲーンズ先生は“Chest Up!” といつも言うておられたのよ、と教わったことを思い出しました。

両校の校章には、女学院の「あやめ」と英和の「かえで」。いずれも草花のシンボルが描かれています。(チャペルのレンガの壁のデザインをご覧ください)。

広島女学院同窓生の皆さま、こんにちは。

いつも東京支部ニュースを楽しみに拝見しています。就職して東京にまいりまして、もう 30 年以上になります。

広島では、どこに行くにも、川があり、橋がありました。河岸を歩いて通学し、桜並木や緑深い木々、そして川面にうつる空を眺めて過ごしておりました。京都の大学に進学し、今度は鴨川のそばで、9 年ほど学生生活を送りました。教職課程を修め、臨床心理学を学びました。現在、広島女学院とよく似た雰囲気をもつ、東洋英和女学院の大学・大学院で教壇に立ち、都内の心理相談室でも臨床活動をしております。

「英和」と親しみを込めて呼ばれるこの学園は、ご存じの通り、広島女学院とも深いつながりがございます。着任してすぐに、女学院と交流のある皆さま、例えば、中高の英語の先生方、短大の心理学や英語学の先生方、また旧職員のご家族など、次々とお声がけいただきました。「女学院と英和はね」と、温かい雰囲気でお話が弾み、まるで母校に迎えられたような気がいたしました。東洋英和の中高の文化祭に足を運ぶと、朗らかで優しい生徒



東洋英和女学院大学（横浜）チャペル

私は、20 期以上の学生たちの卒業を見送ってきたこととなります。現代の女性の生き方は多様で、人生を自由に描くことができますが、同時に、目指すべき明確なモデルがないともいえます。国際機関や日本有数の企業で見事なキャリアを積む、コミュニティで地道な支援活動を続ける、あるいは、家庭人として、目に見えないけれども大切な役割を織り上げていく、病や困難に出会って立ち止まり、じっくりと洞察を深める、いつも新しい世界にチャレンジしていく……。卒業生の便りにみえる物語には、長いスパンでの女子教育の深化があり、感激することが多くなりました。

教師であったミス・ゲーンズは 27 歳の時にアメリカの南メソヂスト監督教会から広島のに降り立ちました。東洋英和のミス・カートメルも教師であり、カナダ・メソヂスト教会婦人伝道会社より婦人宣教師として 37 歳で横浜に到着しました。ミス・ゲーンズは、そもそも「日本への教育宣教師募集」の記事に応募したそうですから、その率直な決意と情熱、そして自らの人生を切り拓こうとする誇りの高さには驚いてしまいます。関西学院創立者のランバス一家とご一緒だったとのこと、この本当に若い女性の出立を見守る、家庭人としてのランバス夫人のあたたかなまなざしを感じます。

今の学生たちは、新型コロナのため、大切な「親密な交流」を制限されて 10 代を過ごしてきました。不透明な日本の将来に、環境悪化の地球の未来に、素朴なとまどいと不安を抱えつつも、しかし、「オンライン」という新たな交流手段を駆使して生き抜こうとしている姿があります。「喪失」を悼むだけでなく、「チャレンジするところ」を見守り、応援していきたいと思っています。

心理臨床の世界は、福祉や教育、社会活動とも重なる領域ですので、あちこちで同窓の皆さまと出会います。どの制服で過ごしたのか、チャペルやパイプオルガンの話から、懐かしい先生方をニックネームでお呼びしながらのエピソード、と話題が尽きることがありません。10 代のしなやかな感性の時代に、私たちは、「よき隣人」であること、小さな野の花にも神さまが見守って下さること、そして、“Cum Deo Laboramus” の精神に触れてきました。私立大学には、「建学の精神」を明確にすることが大切になりますが、ミッションスクールでもラテン語のメッセージを持つ学校は少なく、そんなところにも創成期の先生方の高い志が伝わってきます。

所属しております、日本キリスト教団玉川平安教会は、多摩川の近くにあります。1942 年に日野原善輔先生が牧師を務められた教会で、女学院の大先輩たちがご活躍であり、聖歌隊に迎えていただきました。特に、日野原重明先生は晩年まで聖歌隊隊長でいらして、牛田山の「ヒノハラホール」の献堂のお話を何度もうかがいました。最後のクリスマスイブにも、ご自宅のリビングで、最新式の車いすを乗りこなし、にこやかにキャロリングの時を過ごして下さいました。

秋には横浜校地で、ささやかな生涯学習講座「教育と文化の深層心理—河合隼雄と学ぶ心理学」を担当いたします。また、六本木校地の鳥居坂にあります大学院は、夜間・土曜開講の社会人大学院であり、科目の履修も可能です。大学・大学院は今や生涯にわたって学びの場を提供するミッションが求められています。私も 60 代に入りましたが、先輩の皆さまに続いて、また若い同窓生の皆さまと共に、学びを新たに、次のライフステージを拓いていきたいと思っています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

※生涯学習講座の URL はこちらです。

<https://www.toyoeiwa.ac.jp/daigaku/kenkyu/data/book/>



大学院（六本木）夜のエントランス

編集部注：小坂和子さんのお父様は田中一郎先生（元中高校長・大学事務局長、2005 年召天）です。



## クリスマス礼拝に参加して

東京支部のクリスマス礼拝が、昨年12月17日に銀座教会で行われました。参加者は32人で、中高生のお嬢さんをお連れ下さった方がお二人いらっしゃいました。



高橋牧師のお話はプロテスタントでは触れられることがほとんどない聖母マリアが主題で、人々の苦しみや嘆きを受け止めてくれる主イエス・キリストをお

氏原歌子(佐伯/高32・文英14)

迎えする日であるクリスマスの意義を聖母マリアの賛歌を通して改めて学びました。礼拝後の草間美也子先生によるミニコンサートでは荘厳なパイプオルガンの音色に一同感激！でした。懇親会では90歳代の大先輩から40歳代まで各年代の方々から学生時代のお話や近況を伺いました。同窓会の集いには何度も出席させていただいていますが、その都度皆様のご活躍ぶりに良い刺激を受け、「自分も頑張らねば」という気持ちになります。世代、学年は違っても同じ学び舎で過ごした‘つながり’を感じられるこの集いに今年も参加できたことに感謝しております。



### お知らせ

#### 「8月6日・広島原爆記念日に被爆証言集を朗読する会」

8月6日(日)、13時半～15時半

会場:カタログハウス本社ビル 7F

渋谷区代々木2丁目12-2

新宿駅南口徒歩8分



会場地図



昨年から行っている朗読会です。東京での開催に意義を感じています。

是非、聴きにいらして下さい。同窓生ではない方々も大歓迎です。(白井京子)

問い合わせ: k.shirai0928@gmail.com TEL 090-3200-5551

### 伝言板

- ◇ サークー節子さんが5月に広島へ里帰りされ、5月15日に広島女学院大学で名誉文学博士号の授与式が行われました。授与は2年前に決まっていたのですが、コロナ禍のため式典が延期になっていたものです。1月に91歳になられましたが、お元気でご活躍のご様子、お喜び申し上げます。
- ◇ 東京支部では活動の企画や運営に協力して下さる方を求めています。役員会に出席できなくても、メール、LINE、Zoomなどを使ってご意見を聴かせて頂くだけでも結構です。お気持ちのある方、ご連絡下さい。➡ [gaines\\_tokyo@yahoo.co.jp](mailto:gaines_tokyo@yahoo.co.jp)

**報告** ～ 後輩たちに伝えたい「広島女学院・安田学園 被爆の記憶と記録」～  
2022/11/23 広島 YMCA 国際文化ホールにて開催

記録映画「夏雲-逝きしものへのレクイエム-」は、被爆 45 年の節目に広島女学院によって制作されました。被爆された在校生やご遺族の証言と、遺骨がご遺族の手に渡るよう最後の一人まで尽力された様子など、生々しく語られています。関東ブロックではこれまで「夏雲の集い」で何度も上映してきましたが、昨年、広島で上映される機会がありました。このイベントの主催者の御手洗志帆さんは安田学園の卒業生で、2018 年に女学院高校で開催された画家ヘンリー市川の展覧会を取材し、テレビ朝日の番組「追跡『幻の原爆画』の真実」を制作した方です。その翌年に関東ブロックでホームページ「ヘンリー市川の奇跡の原爆画」を制作したのを機に、御手洗さんが関東で毎年開催している「戦争の記憶と記録を語り継ぐ映画祭」に協力するなど交流を続けてきました。

昨年、映画「夏雲」を知った御手洗さんが、映画制作の原動力となった故・山本佳永子(秦 知子)先生の思いに共感し、「できることなら秦先生と語り合いたかった。関東ブロックで夏雲の集いが 35 年間毎年開催されている理由が腑に落ちた」と感じられたことが今回のイベントでの映画「夏雲」の上映に繋がり、東京支部も企画段階から全面的に協力しました。

当日のアンケートの「是非、多くの方に見て頂きたい」という声に押され、今号の巻頭言にご寄稿頂いた監督の山本洋子さんのご尽力と学校の協力により、近く、映画「夏雲」の DVD が販売される予定です。その折には、「先輩たちの生きた証を伝えていくのは後輩たちの役目である」という御手洗さんの強い思いも汲んで、是非、若い方々も共にご視聴ください。

坂下 恵 (元関東ブロック長)





## 報告 全国代表者会議 & ホームカミングデー

4月21日、全国代表者会議がゲンスホール別棟のチャペルにて開催されました。出席者は、約40名(各ブロック代表17名、本部幹事等20数名)で、関東ブロックからは坂下 恵(ブロック長)と西山朋子(東京支部役員)が出席しました。

開会礼拝で広島流川教会の向井希夫牧師から「愛に生きるとは」と題したメッセージを頂き、その後、議事に入り、質疑応答の後、全議案とも承認されました。

各ブロック・支部の活動報告では、コロナ禍での活動休止から、もうそろそろ動き出そうと検討されている様子がうかがえましたが、まだ活動を積極的に行っているところは少ないようでした。

なお、関東ブロック長・坂下恵は、これを持って退任し、白井京子東京支部長がブロック長兼任となることを報告いたしました。

終了後、校地内の原爆死没者慰霊碑前で礼拝を行いました。



翌22日にはリーガロイヤルホテル広島にてホームカミングデーが開催されました。テーマは「隣人を愛せよ ～つなぐ真心～」。フルートの優雅な調べと共に始まり、開会礼拝では三谷高康院長・学長から「教えの意外さ」と題したメッセージを頂きました。ポストンでの留学生時代に会われた退任宣教師のお話で、



戦争中に捕虜として大森収容所に収容されていた時、東京大空襲の後始末に従事し、米軍が正義と言って行ったことのひどさにショックを受けて、人間の罪深さに気づき、宣教師となって、和解を求めて日本に来られたそ

うで、隣人愛への強い思いを持った方だったとのことでした。

竹内路子同窓会長、中川日出男理事長のご挨拶の後、以前、銀座教会でも講演して頂いた中国新聞記者の森田裕美さん(高校44回)から、ご自身の豊富なお経験に基づいた「ヒロシマを伝える 広島から伝える」と題したお話を伺いました。

続いて、ピアニストと6人のバイオリニストによるアンサンブル。高校15回から58回までのメンバーによる演奏は、この日のために結成されたとは思えぬ息の合ったもので、「愛の挨拶」(エルガー)など6曲を聴かせていただきました。

昨年は設置されていた感染対策のためのアクリル板も無く、コロナ禍以前と変わらぬ和やかな雰囲気の中で会食を楽しんだ後、讃美歌「かみともにいますて」と校歌を歌い、実行委員長の田淵桂子さん(高校22回、文英4回)の閉会のことばによってお開きとなりました。

実行委員は高校22回(文英・文日4、短大21)、高校32回(文英・文日14、短大31)、高校44回(文英・文日26、短大43)の方々と、参加者は、200名弱でした。(坂下)



## 2022年度 広島女学院同窓会東京支部 会計報告

収入			支出		
費目	金額	摘要	費目	金額	摘要
前年度繰越金	949,549		支部ニュース費	259,088	印刷代・封筒代・郵便送料
支部会費	554,000		役員会費用	56,650	会議室料・役員交通費
手芸部売り上げ	22,509		支部活動費	101,912	クリスマス会 他
寄付	101,000		通信事務費	56,693	支部ニュース以外の通信事務費
利子	4		関東ブロック分担金	26,175	夏雲の集い
			次年度繰越金	1,126,544	
<b>合計</b>	<b>1,627,062</b>		<b>合計</b>	<b>1,627,062</b>	

上記の通り会計報告を致します。

監査の結果、収支報告に相違ありません。

2023年3月31日 会計 **松岡理乃**

2023年4月 5日 会計監査 **重本 ゆり**

## 2023年度 東京支部役員

※氏名下段はひとこと自己紹介、テーマは「女学院の思い出」です

関東ブロック長 支部長	白井 京子(現・瀧口)高23、文英5 高校の制服に憧れていたのに入学と同時に変わった。	支部ニュース 編集長	坂下 恵(杉田)文英1 大学時代、クワイヤの一員で良かった！
副支部長	滋野 順子(前埜)高19 新体操部の創部に貢献できたかな♡	編集委員	小林 悦子(土生)高46 個性的な先生方のモノマネをするのが楽しかった◎
副支部長	桜井 悦子(瀬川)高23、文英5 ピアノを習っていたので音楽の授業が一番楽しかった。	編集委員	平田 香里(高原)高47 食堂のスープスパゲティが今でも無性に食べたくなります。
書記	佐藤 美代子(池田)高22、文日4 背の小さい私は中学3年間バレーボール部でした。	実行委員	鈴木 章子(岩田)高19、文英1 運動会、羽織袴刀姿での仮装行列が懐かしい！
会計	松岡 理乃(木沢)高30 食堂の150円ラーメンが好きでした。	実行委員	西山 朋子(佐々木)高22、文英4 写生の時間お喋りに夢中になり、次の物理に大遅刻！
宗教委員	千代崎 満子(白根)高33、文英15 新体操部の鬼マネージャーで、インターハイに行きました。	実行委員	氏原 歌子(佐伯)高32、文英14 中高茶道部で、練習の時の和菓子が楽しみでした。
会計監査	重本 ゆり(重本)文英8 教育実習時の生徒と役員会で再会してびっくり！		



東京支部へのご意見や支部ニュースのご感想など、振替用紙の通信欄・メールにてお寄せください。  
とても励みになります！  
gaines\_tokyo@yahoo.co.jp

支部活動は皆さまの会費に支えられています  
**今年度の会費(2,000円)の納入をお願いいたします**

日頃のご支援・ご協力に感謝いたします

※銀行振込の場合

三菱UFJ銀行 高田馬場支店 普通 0473771 広島女学院同窓会東京支部





# 夏雲の集い 2023

同窓会関東ブロック主催  
～ 原爆死没者追悼礼拝 ～

関東ブロックでは、母校での 350 名の犠牲者を追悼し平和に向き合う集会として、故山本佳永子(秦知子)先生の提唱による「夏雲の集い」を 1988 年から毎年開催してきました。今年も白金教会をお借りし、礼拝の後、同窓生庭田杏珠さんの講演を予定しています。足の便の良いところですので、ご家族やお知り合いの方々もお誘いください。

## 7月15日(土)

13時30分～15時30分(受付13時より)

日本基督教団 白金教会 品川区上大崎 2-18-18

13:00～ 受付、13:25 着席

13:30～ 追悼礼拝・説教

奏楽 黒田尚子さん(丸本/高 31)

14:00～ 講演「記憶の解凍」～戦争体験者の「想い・記憶」のあたらしい伝え方  
庭田杏珠さん(高 72)

### 白金教会 ご案内

- 目黒駅(JR、東急目黒線、東京メトロ南北線、都営三田線)
- JR目黒駅西口より徒歩4分
- 駐車場あり
- 礼拝堂は2階 (エレベーターあり)

